

国立病院機構熊本医療センター

No.216



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

「腫瘍内科」が医師4名体制で活動を開始しました

“なぜ、今、腫瘍内科”

がんは日本人の死因の第1位であり、男性の2人に1人、女性の3人に1人はがんで死亡しています。がん医療連携をどう構築するかは、わが国の重要な課題の一つです。

2015年4月から、当院では「腫瘍内科」に、医師3名が増員され4名体制で活動を開始しました。腫瘍内科は、臨床腫瘍学および緩和医療学を両輪に、がん薬物療法を専門に扱う部門です。ご周知の通り、厚生労働省は第2期がん対策推進基本計画が進行中です。がん診療には「外来化」「集学化」「チーム医療」「医療連携」の充実が求められています。当院におきましても個々の患者さんに最良の治療が行われるように、腫瘍内科は以下の3つの活動を開始しました。

①「化学療法・緩和ケアの腫瘍内科への集約化」

すべての種類のがん、早期・進行期・終末期すべての病期に専門的に担当します。

②「外来がん化学療法センターの構築」

がん治療の外来化、外来での医療連携、リスクの集中管理を行います。

③「緩和ケアセンターの構築」(緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア回診)

入院・外来を問わず、チームで早期対応・専門対応を行います。

患者・家族のQOLに主眼を置き、医療連携を推進します。

がんは一般的に亜急性の経過をとる疾患です。がん診療は外来で行われることが多く、患者は自宅で生活しています。がんの診療は、がんだけでなく患者や家族のQOLを診ることが要求されます。また、終末期に限ってみるとがんの病態の変化が速く、ある意味において急性疾患の局面も持ちます。そのため、がんの治療が開始となった早い時点から、多職種・多医療機関が参加した医療連携を開始することがとても大切です。クリニックや病院の存在は大きく、重要な役割を担うことが期待されています。

数年後、外来新棟に外来化学療法センター・緩和ケアセンターが創設されます。それまでは、現行の外来化学療法室を徐々に充実させていきます。今後、皆様とがんの治療や検査、ケアに至るがん診療の全ての局面でチーム医療による医療連携を図っていくことになると存じます。皆様のご施設と当院とで行う地域がん診療連携体制が日本や世界のモデルとなることを目指します。ご協力、ご参画のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

《腫瘍内科スタッフ》

部長 境 健爾 (さかい けんじ) : すべてのがん、すべての状況に対応します。

医長 築 達智 (さかい たつのり) : 血液がん、すべてのがんに対応します。

医長 磯部 博隆 (いそべ ひろたか) : すべてのがんの緩和ケア・医療連携を担当。

医長 山本 春風 (やまもと はるかぜ) : 婦人科がん、乳がんを中心に対応します。

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



「りんどうネットの利便性と 熊本県の新たな地域連携の試み」



下田内科クリニック

院長 下田 光一郎

当院は、2013年より熊本県下では先駆的な地域連携の試みである国立病院機構熊本医療センターの病診連携サービスである「りんどうネット」に参加させて頂いている。Windows7に標準搭載されたVPN（仮想プライベートネットワーク）を用いた病診連携ツールである。既存のPC環境をそのまま使い、追加投資は一切不要で、熊本医療センターへの紹介患者のリアルタイムな電子カルテ閲覧が可能である。L2TP/IPsecというソフトウェアVPNであり、詳細は割愛するがVPNの中でもセキュリティは申し分ない。日常診療を行いながら、紹介患者の電子カルテを自分のデスクトップPCから容易に見ることができ、診療内容、時系列の検査データ、手術や処置

の経過、投与薬剤や効果の推移等々が一目瞭然である。画像参照機能はCT、MRI等のDICOM規格の画像は元より、内視鏡のJPEG画像も閲覧可能であり、放射線科の読影所見や病理の報告書まで読むことが出来る。このように医療ICT化による病診連携で齎される情報は通常の紙媒体でのやり取りとは質的量的にも比較にならない。何より利用者側が必要とする情報が正確且つ迅速に得られる点は最大のメリットである。今後もこのような病診連携の動きは医療現場のICT化に伴い更に加速し、参加医療機関が増加するであろうことは疑う余地もない。しかしながら、熊本県下での地域連携の現状は、まだ“基幹病院とかかりつけ医”という謂わば“病院完結型”の連携が主であり、他の医療機関、歯科、個々の薬局（薬剤情報：重複処方や併用禁忌等）介護施設等との横の連携には至っていない。従って、今後は更に地域ネットワークの横断的連携への拡充を図る時期に来ていると言える。既に医療情報の電子化や標準化を可能にするためのSS-MIX2とHL7ver.2.5という所謂電子カルテの標準化言語を用いて、これまでベンダー毎に異なっていた医療情報の規格を統一化し、医療や介護現場での連携と標準化運用を行う動きが始まっている。昨年11月に“熊本県地域医療等情報ネットワーク”構想が熊日で報じられ、熊本県医師会のHPにもこのネットワーク構想の概略と参加ベンダー公募が掲載されている。今後電子カルテやレセコン、調剤、介護等のシステムベンダー各社のデータ規格の制約がないシームレスな情報のやり取りが可能となれば、熊本県での医療情報の連携と活用は飛躍的に向上するであろう。

医学生のための臨床研修説明会のお知らせ

平素は研修医の地域医療研修等についてご協力を頂き、厚くお礼を申し上げます。さて、この度、当院では毎週金曜日に行なっております医学生を対象とした病院見学会に加え、次年度の臨床研修に向けての臨床研修説明会を下記の通り実施することになりましたのでご通知申し上げます。

説明会では指導者および研修医も参加し、医学生との意見交換や病院機能・研修内容等についての紹介もあり、当院のことを理解してもらい良い機会ですので一人でも多くの医学生に参加して頂きたいと思っております。熊本医療センターでの研修に興味をお持ちの医学生がおられましたら、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

（教育研修部長 大塚忠弘）

医学生のための臨床研修説明会

日時：平成27年6月6日（土） 13：00～16：30

場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール

病棟紹介

7 東病棟



7東病棟スタッフ

7階東病棟は、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、歯科口腔外科、救急救命科の混合病棟です。

眼科は、白内障の患者様が最も多く、火曜日と木曜日に白内障の手術を行っており、クリティカルパスに沿ってケアを実施しています。また、眼科の患者様は自宅への退院が多く、退院後の生活に対する患者指導に力を入れて取り組んでいます。

耳鼻咽喉科は、副鼻腔炎、喉頭のう腫、耳下腺腫瘍、扁桃周囲膿瘍、めまい症、突発性難聴などの患者様が多く、手術療法、化学療法、放射線療法、薬物療法を行っています。

形成外科は、眼窩骨折、頬骨骨折、多発骨折、電撃傷などの患者様が多く、主に手術療法を行っています。事故など突発的な疾患が多いため、治療を行うと同時に精神面でのケアにも丁寧に取り組んでいます。



耳鼻咽喉科診察の様子



皮膚・形成外科処置室での処置の様子

皮膚科は、熱傷、皮膚潰瘍、褥瘡、ガス壊疽の患者様が多く、手術療法や軟膏処置を中心に治療を行っています。

歯科口腔外科は、埋伏水平歯や歯根のう胞、下顎骨骨折などの患者様が多く、抜歯などの手術療法を主に行っています。

病棟は、各診療科の特殊性に合った処置室を有しており、医師と看護師が協力し日々の処置を実施しています。診療科が多い病棟のため、診療科間の連携が必要となりますが、医師と看護師のチームワークを万全に整え、患者様だけでなくスタッフ全員が満足できるような病棟作りに努力しています。

(7東病棟師長 佐藤美穂)



歯科口腔外科処置室



眼科処置室

2015 診療科紹介(82) 形成外科



部長

大島 秀男 (おおしま ひでお)

形成外科一般、先天異常（口唇裂、小耳症、合指症）、顔面機能再建（眼瞼下垂、顔面神経痺）、マイクロサージャリー、外傷外科（顔面骨骨折、熱傷）、陥没乳頭、乳房再建

日本形成外科学会専門医

日本創傷外科学会専門医

日本熱傷学会専門医



医長

東野 哲志 (つかの てつし)

形成外科一般、外傷外科（顔面骨骨折、熱傷）、手足の外科、ケロイド・瘢痕、巻き爪・陥入爪

日本形成外科学会専門医

診療の内容と特色

形成外科は体表のあらゆる形態異常、外傷またそれに伴う機能異常を手術治療、創傷治療によって修復、改善する診療科目です。機能回復、生活の質（Quality of life）の向上を目指した専門分野であり、特定の臓器ではなく全身のあらゆる部位を治療対象としますので、他の診療科との境界領域も多く、共同診療の機会が多いのが特徴です。

形成外科で扱う分野には、

1. 先天異常、2次的変形などの異常な形態を正常な形態にする（形を造る：形成外科）。

口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、多指症・合指症など。

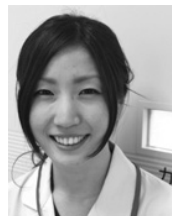
2. 外傷・熱傷、腫瘍切除後などの組織欠損の修復、現状回復をする（形を治す：再建外科）。

顔面外傷・骨折、熱傷、腫瘍・母斑、顔面神経麻痺の表情再建、乳房再建など。

3. 正常な形態をさらに美しく修正する（形を変える：美容外科）。

腋臭症、陥没乳頭、二重瞼など。

という3本柱があり、体表の形態異常、外傷全般の診療を幅広く行っています。手術においては先天異常、皮膚腫瘍・母斑、ケロイド瘢痕、顔面機能再建（眼瞼下垂、顔面神経麻痺）、四肢・頭頸部再建を中心に「きれいに治す」ことを目指しています。特にケロイド瘢痕の治療では、手術に放射線療法を併用して再発を予防し、良好な成績が得られています。また平成18



医師

加来 知恵美 (かく ちえみ)

形成外科一般、外傷外科（顔面骨骨折、熱傷）

年6月からはQスイッチ・ルビーレーザーを導入し、メラノサイト系のアザ、シミの治療を開始しております。

平成21年度には日本スキンバンクネットワークに加入するとともに熱傷ベッドが配備され、広範囲熱傷治療の充実が図られました。

最近が高齢化社会の為か、悪性腫瘍、難治性潰瘍・足病変や加齢性眼瞼下垂の患者様が増加しています。また救命救急センター（3次救急）が併設されているため外傷症例も多く、顔面外傷・顔面骨骨折、熱傷などの救急医療にも力を入れています。熊本県の総合病院では有数の形成外科を標榜する施設であり、平成17年度より日本形成外科学会教育関連施設、平成21年度からは認定施設となり、形成外科専門医の教育機関となりました。現在3名で外来診療、手術、救急診療にあたっています。

診療実績

平成26年度

外来新患：831名、紹介率86.5%、1日平均外来患者数：13.9名

新入院患者：322名、1日平均在院患者数：10.3名、平均在院日数11.6日

手術件数：手術総計 895件（H26）、[手術センターでの件数：329件（他科再建手術を除く）]

<主な手術>

皮膚腫瘍の切除、再建	358件（悪性腫瘍43件）
顔面骨骨折	107件
熱傷、凍傷	31件
ケロイド、瘢痕拘縮	44件
難治性潰瘍、足病変	62件
眼瞼下垂、顔面神経麻痺	51件

今後の目標・展望

形成外科全般、特に、顔面機能再建・形態再建、先天異常、皮膚腫瘍、外傷の手術など再建領域の外科的治療の充実を図ります。頭頸部癌、乳癌術後の組織欠損については症例に応じて一次再建または二次再建により対応しています。乳房再建については平成25年度からインプラントによる二次再建も保険医療の範囲で選択できるようになり、当院も乳房インプラント実施施設となりました。

さらに下腿難治性潰瘍、足病変などのフットケアにおいては循環器科、心臓血管外科、糖尿病内科などと連携して診療にあたっております。救急医療では顔面外傷・顔面骨骨折、熱傷、四肢の皮膚軟部組織損傷を主に担当しており、地域における病診連携、病病連携を充実させ、形成外科的疾患のある患者様を幅広く受け入れていきます。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ93回

当院における多剤耐性アシネトバクターの院内伝播抑制策

前薬剤科・感染制御室 平木 洋一

多剤耐性アシネトバクター（MDRA）は世界的にアウトブレイクしていますが、日本での検出は比較的に稀であります。しかし、数年前に入院中の患者さんから、MDRAが検出されました。感染兆候は認められず保菌状態でありました。その後数名の患者さんからMDRAが検出されました。そのため、検出されたMDRAが同一株であるか判断するため、Pulsed-field gel electrophoresis（PFGE）解析を行いました。その結果、同一菌株が院内伝播していることが明らかになりました（図1）。さらに、プラスミド上に *bla*_{OXA-23-like} および、その上流に *ISAba1* が認められ、カルバペネマーゼ産生により薬剤耐性を示していると推察されました。さらに、世界的なアウトブレイクを起こしている International clone II（IC-2）であることも明らかとなりました。院内伝播抑制策として病棟の一部を閉鎖するゾーニングを実施するとともに、MDRAが院内伝播していることを全職員へ伝達しました。また、手指衛生の重要性について再認識していただくため、スタッフを対象とした研修会を開催しました。その後、院内伝播は認められていません。もちろん、現時点でも当院でMDRAは検出されていません。同一菌株由来の株が院内伝播している環境は、実施している感染制御策の失策と言えます。国内のMDRA分離状況を考慮すると、院内でMDRAが複数株分離された場合、同一菌株由来である可能性が高く、PFGEによって最終的な判断をすることが重要と思われれます。同一菌株由来の株が院内伝播している場合は、その原因を追及するとともに、手指衛生の徹底やユニットの閉鎖などが有効となります。MDRAをはじめとする新型の薬剤耐性菌が疑われた場合、菌株の同定結果の確定を待つより、疑いの段階であっても早期の隔離予防策を図る必要があります。全職員への情報伝達を行うとともに、日常的な手指衛生の周知徹底および感染制御への継続した意識づけが、最も有効な感染制御策であると思われれます。

最後になりましたが、MDRAの遺伝子解析および当院における感染制御策に関し、貴重なご助言をいた

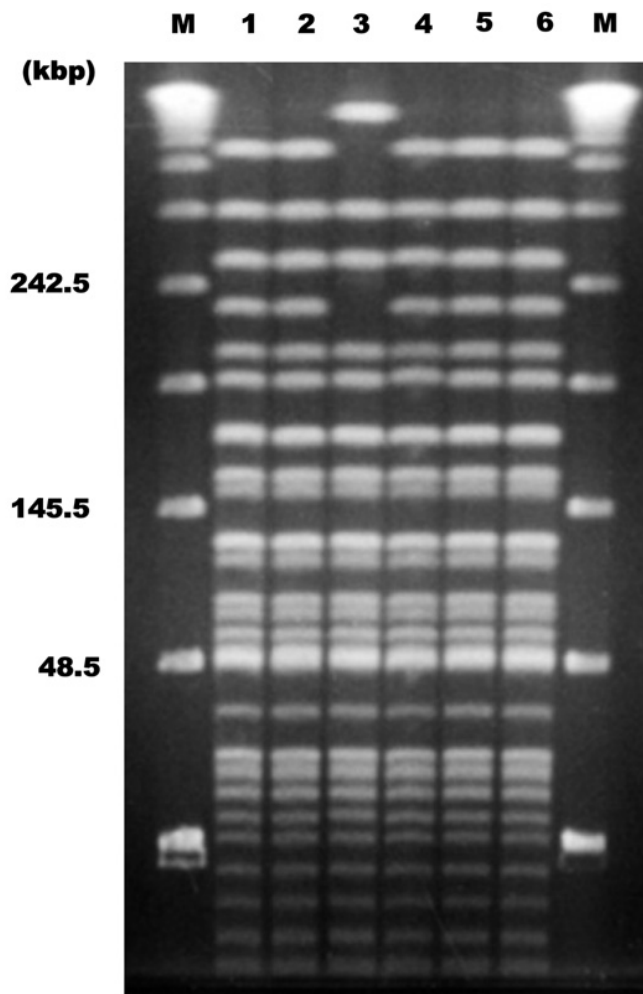


図1. パルスフィールドゲル電気泳動法（PFGE）によるタイピング解析結果

Lane 1: MDRA-1; Lane 2 MDRA-2; Lane 3 MDRA-3; Lane 4 MDRA-4; Lane 5 MDRA-5; Lane 6 MDRA-6; Lane M; CHEF DNA size standards lambda ladder (Bio-Rad). Molecular typing of strains was performed by pulsed-field gel electrophoresis (PFGE) using *ApaI* as the restriction enzyme

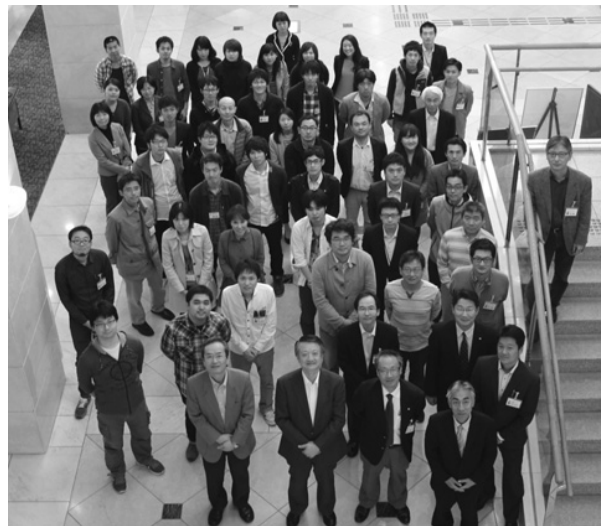
だきました、国立感染症研究所 細菌第二部の柴山恵吾部長、鈴木里和先生、松井真理先生、鈴木仁人先生および国立看護大学校の網中真由美先生に深謝します。また、院内伝播抑制策の実施指揮をしていただきました、益田洋子（ICN）、吉田真由美（ICN：現熊本大学付属病院看護部）に深謝します。

平成27年度 新任医師等宿泊研修が行われました

第3回「新任医師等宿泊研修」が4月17日～18日にエミナースで開催されました。前回までは新任医師のみを対象とした研修でしたが、今回より各職種の新任職員を参加者に加え、総勢63名が参加しました。1日目、司会を豊永教育研修科長が担当され、河野院長の挨拶により研修が開始されました。その後、高橋副院長が「当院における救急医療体制の構築の歴史」の題にて、「365日24時間断らない救急」の成り立ちについて講演されました。現在とは全く異なる救急創立当時の話は、当院の救急医療の使命について参加者の心に深く刻まれたことと思います。講演後は、会場を移して内田事務部長の乾杯のご発声で、夕食、意見交換会となりました。研修初日の緊張もとれて、職種を超えた親睦を深めることができました。

2日目の午前の部は、「患者接遇マナー研修」として外部講師を招いての研修でした。立ち居振る舞い、身だしなみ、言葉遣い、席次の考え方、名刺交換マナーなど、接遇の基本について、楽しく学ぶことができました。このような研修を受ける機会の少ない特に研修医の皆さんには新鮮な内容だったのではないでしょう

か。昼食後は、原田救命救急科医長から「救急外来診療の実際」という題にて当院の救急医療現場でのルールについての説明がありました。その後、片渕副院長による閉会の辞があり、ホテルのロビーで記念撮影をして研修は無事終了しました。（理課長 清水就人）



ロビーでの記念撮影

第1回 二の丸肝臓フォーラムのご案内

（日本医師会生涯教育講座 1.5 単位）

平成20年4月よりインターフェロン(IFN)療法地域連携クリティカルパスを運用し、9月にかかりつけ医師ならびにコメディカルの皆様とともに顔の見える勉強会として「二の丸肝臓談話会」を発足しました。実地診療に根ざした勉強会を目指し、年4回の例会と1回の特別講演会を開催してまいりました。この間、肝炎治療は目覚ましい進歩を遂げ、平成26年よりIFNからIFNフリー治療へ大きく変貌しつつあり、本会の果たす役割を終えたと考えます。この度、第1回 二の丸肝臓フォーラムを下記の要綱にて開催したいと存じます。肝炎から肝硬変、肝がん及び代謝性肝疾患など肝臓病を包括的に俯瞰し、これまで以上に連携を深めるとともに、ご一緒に知識を深めてまいりたいと考えています。何かとご多忙とは思いますが、本趣旨をご理解頂き万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

二の丸肝臓フォーラム 代表世話人 消化器内科部長 杉 和洋

記

【日 時】 平成27年6月22日（月）19：00～20：40

【場 所】 ホテル日航熊本 〒860-8536 熊本市中央区上通り町2-1 TEL 096-211-1111

代表世話人ご挨拶

座長：庄嶋医院 院長 庄嶋 健 先生

【講演1】 19：10～19：30

『C型肝炎治療ガイドライン 2015』 国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 中田成紀

【講演2】 19：30～19：50

『IFNフリー治療での服薬指導の実際』 国立病院機構熊本医療センター薬剤部 横田千明

【講演3】 19：50～20：10

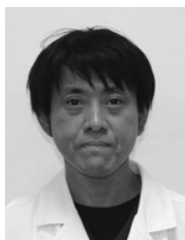
『IFNフリー治療における患者さまとの関わりについて』
国立病院機構熊本医療センター 7階西病棟看護師 宮原 彩

【特別講演】 20：10～20：40

座長：七城木村クリニック 院長 木村圭志 先生

『当院でのC型肝炎に対するIFNフリー経口2剤の治療実績』
国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋

新任職員紹介

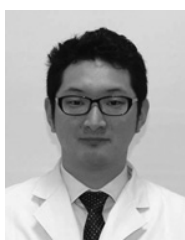


皮膚科
ほんだ のりとし
本多 教稔

平成27年4月1日より国立病院機構熊本医療センター皮膚科に赴任することになりました本多教稔と申

します。宮崎大学医学部を卒業、初期研修を修了し、熊本大学皮膚科に入局しました。その後、熊本大学医学部附属病院、国立療養所菊池恵楓園、天草中央総合病院で勤務してまいりました。

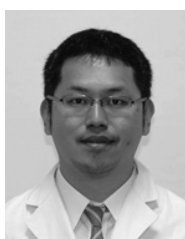
熊本医療センターは救急からの入院も多く、重症感染症など急性期疾患の診療に今まで以上に従事することになると思います。皮膚科医として熊本の医療に少しでも貢献できるよう一生懸命頑張りますので、よろしくお願いいたします。



腎臓内科
おのうえ ともあき
尾上 友朗

この度、腎臓内科に着任しました尾上友朗です。腎

疾患、電解質酸塩基異常、透析・血液浄化を専門にしています。AKIからCKDまで腎疾患は社会的な要請も高く大きな注目を集めている分野です。医療センターは急性期の重症例が多く腎臓の側面から貢献出来ることも多いのではないかとおもいます。日本でも指折りの病院で勤務出来ることを嬉しく思いますが、身の引き締まる思いです。精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。



外科
すぎはら ひでたか
杉原 栄孝

平成27年4月より外科に勤務させて頂くことになりました、杉原栄孝です。

平成19年に熊本大学医学部を卒業後、済生会熊本病

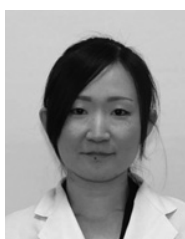
院で初期臨床研修医を勤め、平成21年に熊本大学消化器外科学に入局いたしました。平成24年に熊本大学大学院博士課程を履修し、今年の3月に無事卒業し、このたび当院に勤務させて頂くことになりました。大学院卒業後ということもあり、先生方やその他スタッフの方に御迷惑おかけすることが多々あるかとは思いますが、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張っております。



神経内科
みうら まさと
三浦 正智

平成27年4月より神経内科に勤務させていただくこ

ととなりました三浦正智と申します。佐賀大学を卒業後、熊本大学病院神経内科へ入局いたしました。神経内科全体、特に脳卒中分野を中心に日々の診療をがんばっている真っ最中です。国立病院は救急疾患の患者さまも多く、神経内科として皆様のお役に立てますようにがんばっていきたく思っております。神経内科は3人が新しく赴任することとなりますが、何卒よろしくお願い致します。

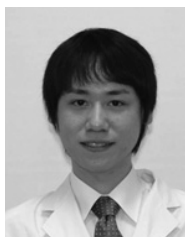


麻酔科
ひらおか ちえこ
平岡 知江子

4月から国立病院機構熊本医療センターに勤務させていただくことになりました麻酔科の平岡知江子と申

します。2年間の初期研修終了後、熊本大学医学部附属病院麻酔科に入局し、大学病院、熊本市市民病院、熊本労災病院にそれぞれ1年ずつ勤務し、今年で6年目となります。今回、八代から転居してきて、新しい環境での勤務をととても楽しみにしています。まだまだ至らないところが多く、皆様には御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新任職員紹介

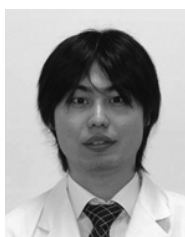


歯科口腔外科

たにぐち こうすけ
谷口 広祐

皆さん、はじめまして。今年の3月に九州歯科大学大学院を卒業し、4月より国立病院機構熊本医療センターの歯科・口腔外科に配属となりました谷口広祐と

申します。大学で5年間口腔外科を専門に学び、その傍ら基礎医学の研究（主にマクロファージ関連）を行って参りました。生まれも育ちも北九州市ですので環境の変化にしばらく慣れないところもあるかと思いますが、1日も早く仕事を覚え患者様や皆様のために頑張っていきたいと思っております。まだまだ未熟な点ばかりで皆様にはご迷惑をお掛けすることがあるかと思っておりますが、何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

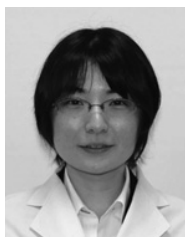


血液内科

ひらの たいいち
平野 太一

平成27年4月より血液内科に勤務させていただくこととなりました、平野太一と申します。これまでは大

学病院、熊本市市民病院の勤務させていただき、このたび熊本医療センターに赴任することになりました。血液内科の入院は悪性疾患の割合が多いですので、明るく診療できるように心がけております。熊本医療センターは県内の同種造血幹細胞移植を担っており、私もみなさまのお役に立てよう頑張りたいと思っております。よろしくおねがいたします。



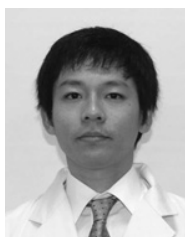
放射線科

い やま
猪山 あゆみ

平成27年4月より放射線科で勤務させていただくこととなりました猪山あゆみと申します。放射線科医と

して4年目になります。

熊本医療センターに赴任する前の2年間は天草で過ごしていました。これまでは放射線治療に主に従事してきましたが、IVRや診断業務にもしっかり励みたいですので。しばらくぶりの熊本市、かつ総合病院での勤務で緊張していますが、貢献できるよう頑張ります。御指導、御鞭撻の程、よろしくお願致します。



消化器内科

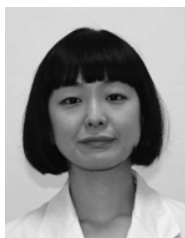
ふたぐち としき
二口 俊樹

平成27年度より国立病院機構熊本医療センター消化器内科で勤務させて頂くこととなりました。鹿児島大

学を卒業後、県外で研修を行い昨年一年間大学病院で勤務をしていました。熊本に戻ってくるのは10年ぶりで懐かしく感じるものがたくさんあります。

新しい職場となり期待と不安が入り交じった状態ではありますが楽しみながら仕事をしていければと思います。

まだまだ勉強中の身ではありますが、少しでもお役に立てよう精一杯頑張っていきますのでご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いたします。



糖尿病・内分泌内科

おおつ かえ
大津 可絵

4月より、糖尿病・内分泌内科レジデントとして大学病院より異動してまいりました。一人一人の患者様に親身になって取り組んで参りたいと思っております。まだまだ勉強することが多く微力ですが、みなさまから沢山のことを学び、一生懸命頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

新任職員紹介



外科
やま お たかのぶ
山尾 宣暢

本年度より外科に赴任いたしました山尾宣暢と申します。佐賀大学を卒業後、熊本大学と済生会熊本病院

で1年ずつの初期研修医を経て、一昨年に熊本大学消化器外科へ入局いたしました。昨年までは天草地域医療センターで1年間勤務しておりました。この度は熊本医療センターで働くこととなり、本当に自分自身気持ちが高まっております。まだまだ医師としては未熟ではありますが、皆様と一緒に日々仕事に励んでいきたいと思っています。

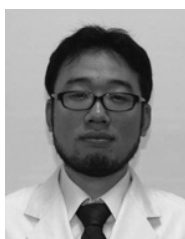
相談でもなんでも結構です。気軽に声をかけていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



泌尿器科
さめしま ともひろ
鮫島 智洋

4月から泌尿器科で勤務させていただくことになりました鮫島と申します。

通称「男塾」を呼ばれている熊本医療センター泌尿器科で研鑽をつみ、地域医療に貢献したいと思います。ボロボロになる覚悟はできております。宜しくお願致します。



精神科
はとの たけあき
鳩野 威明

平成27年4月より精神科に勤務させていただくことになりました鳩野威明と申します。平成24年に熊本大学医学部を卒業後は、当院で2年間初期研修をさせて

いただき、昨年度、熊本大学神経精神科に入局いたしました。

医学部入学の以前には工学部に所属し、有機化学、分子生物学の研究に取り組んでおりましたが、一念発起し医学・医療の道を歩んでいるところです。

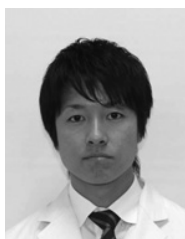
精神科としての経験が浅く、皆様にご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、医師としての基礎を学ばせていただいた当院・先輩方に少しでもご恩をお返しできるよう日々の診療に臨んでゆく所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



精神科
おにつか ゆうり
鬼塚 悠里

平成27年4月より精神科に赴任させていただくことになりました、鬼塚悠里と申します。初期臨床研修1

年次を熊本医療センターで研修させていただきました。その後、熊大で初期研修2年次を終え、熊本大学神経精神科へ入局し1年間大病院で勤務しました。再び当病院に勤務する機会を頂いたことをありがたく感じるとともに、大変身の引き締まる思いです。少しでも早く地域のお役に立てるよう精進していきたいと考えています。ご迷惑おかけすることも多々あるかとは思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



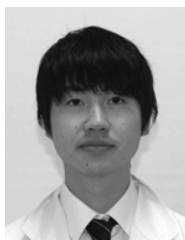
整形外科
うら た やすひろ
浦田 泰弘

平成27年4月1日より国立病院機構熊本医療センター整形外科として勤務させて頂くこととなりました浦田

泰弘と申します。

平成24年に久留米大学卒業後、熊本大学病院、熊本労災病院で研修後、平成26年に整形外科に入局しました。整形外科医としてはまだ1年目であり多大なご迷惑をおかけするかと思いますが、多くの外傷を経験し、多いに成長できるように切磋琢磨していきたいと思っています。体力には自信があります。働きやすい環境とお聞きしており、働けるのを楽しみにしております。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

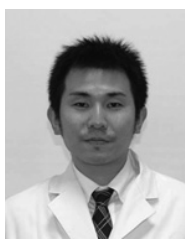
新任職員紹介



神経内科
のむら じゅんや
野村 隼也

平成27年4月1日より神経内科に勤務させて頂くこととなりました野村隼也と申します。三重大学医学部

を卒業後、三重県伊勢市で2年間の研修を終え、平成26年に熊本大学神経内科へ入局いたしました。紹介させていただいた通り、県外に住んでいたことが長く、熊本の医療事情についてわからないことがたくさんあります。また、医師として多くの経験をしていかなければならない過程であるため、多くの先生方やスタッフの方々に多大な御迷惑をお掛けすると思っております。少しでも新しい環境に慣れ、少しでもお役に立てるように頑張りたいと思っておりますので、御指導御鞭撻の程よろしくお願ひいたします。



外科
なか お ようすけ
中尾 陽佑

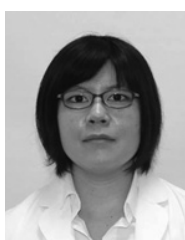
外科レジデントとしてこの4月から赴任いたしました中尾陽佑と申します。

宇城市三角町の出身です。平成24年に長崎大学を卒業し、当院にて2年間の初期臨床研修をさせて頂きま

した。各科の先生方、各病棟のスタッフの方々には大変お世話になり、本当にありがとうございました。研修終了後に熊本大学消化器外科学教室に入局し、大学病院での1年間の修練を終え、今度は外科レジデントとして再度当院に勤務させて頂くことになりました。

4月2日にさっそく夜間当直をさせて頂きましたが、相変わらずの忙しさに懐かしさを感じるとともに、身の引き締まる思いです。

初期研修医のときの志も忘れずに1年間頑張ります。どうぞ宜しくお願ひいたします。

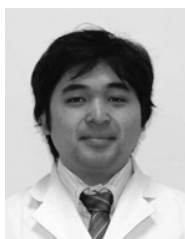


麻酔科
はら まり え
原 万里恵

こんにちは。4月より国立病院機構熊本医療センター麻酔科に赴任することになりました原万里恵と申しま

す。熊本大学卒業後、人吉医療センターにて2年間の初期研修を修了しました。昨年熊本大学・麻酔科に入局し、大学病院で1年間勤務しました。

当病院では大学病院とは異なり、様々な救急症例を経験させていただけることと思っております。緊張してはいますが、早く新しい環境に慣れて、熊本の医療に貢献できるよう頑張ります。まだまだ経験も浅く、ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

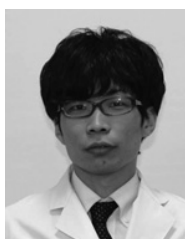


歯科口腔外科
なかかわ ふみ お
中川 文雄

平成27年4月1日より国立病院機構熊本医療センター

口腔外科で勤務させていただくことになりました、中川文雄と申します。

九州歯科大学を平成24年に卒業し、歯科麻酔科に入局して全身麻酔、静脈内鎮静法や頭頸部領域のペインクリニックなどを勉強してまいりました。この度、当院の歯科口腔外科にて勉強させていただきます。まだまだ若輩者でご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、お役に立てますよう一生懸命努めてまいりますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



泌尿器科
うえその えいた
上園 英太

このたび、国立病院機構熊本医療センター泌尿器科

に4月から赴任することになりました上園英太と申します。鹿児島県出身で熊本大学を卒業後に昨年度まで熊本大学病院で研修医として勤務していました。大学病院とは違って救急当直もあり不安ですが、いい機会だと思って再度勉強し直そうと思っております。

泌尿器科1年目でまだまだ未熟でご迷惑をかけることが多々あると思っておりますが、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

研修のご案内

第85回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成27年6月3日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長 片渕 茂

「極めて治療困難な脳腫瘍：グリオーマの克服に向けて」

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学教授 倉津純一 先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

第197回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成27年6月15日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 内科基礎講座 診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
「第1症例 黄疸の症例」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長 杉 和洋
「第2症例 肥満、高血圧と高血糖の症例」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 大津可絵
2. ミニレクチャー「薬物乱用頭痛」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 山本文夫
日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第165回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成27年6月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「妊娠糖尿病患者における外来栄養指導時の食事摂取状況について」
国立病院機構熊本医療センター栄養管理室、糖尿病内分泌内科
山田奈津美、大野仁美、池田かおり、米倉貴子、堀尾香織、坂本和香奈、橋本章子、小野恵子、豊永哲至、松永直子
2. 「妊娠中に1型糖尿病を発症した一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科、産婦人科
坂本和香奈、大津可絵、松山利奈、橋本章子、小野恵子、高木みか、高橋毅、豊永哲至
なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至 TEL 096-353-6501(代表) 内線5796

第52回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成27年6月20日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：沢田内科医院 院長 澤田知宏 先生

演題：「CKD up to date 2015」-CKD（AKIも含む）の専門医への紹介基準を再考する-

1. 高齢者やANCA関連血管炎を想定した場合の紹介とその加療
国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎
2. 非高齢者やDM患者を想定した場合の紹介とその加療
熊本市立熊本市市民病院腎臓内科部長 宮中 敬 先生
3. IgG4関連腎臓病を想定した場合の紹介とその加療
熊本大学医学部附属病院地域専門医療推進学寄附講座特任准教授 井上秀樹 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第140回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成27年6月24日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「精神科救急（兼DSHカンファレンス）」

国立病院機構熊本医療センター精神科部長

渡邊健次郎

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

2015年 研修日程表 6月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修センターホール	研修室
1日(月)		
2日(火)		
3日(水)	19:00~20:30 第85回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座 1.5 単位認定] 「極めて治療困難な脳腫瘍：グリオーマの克服に向けて」 熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学教授 倉津純一	
4日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「呼吸の管理（血液ガスの読み方）」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎	
5日(金)		
6日(土)		
7日(日)		
8日(月)		
9日(火)		
10日(水)		
11日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「呼吸の管理（人工呼吸器の使い方）」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀧 賢一郎 18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会一般検査研究班月例会	
12日(金)		
13日(土)	9:30~15:30 第36回 ナースのための心電図セミナー 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 宮尾雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 すえふじ医院 院長 末藤久和 国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長 藤本和輝 他
14日(日)		
15日(月)	19:00~20:30 第197回 月曜会（内科症例検討会） [日本医師会生涯教育講座 1.5 単位認定]	
16日(火)		
17日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室（研2）
18日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「意識障害の考え方」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北智裕 14:00~15:00 第27回 市民公開講座 「更年期障害について」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 西村 弘	19:00~20:45 第165回 三木会（研2） （糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会） [日本医師会生涯教育講座 1.5 単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位 < 2 群 > 0.5 単位認定]
19日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室（研2） 「急性肝炎について」
20日(土)	15:00~17:30 第52回 症状・疾患別シリーズ 「CKD up to date 2015」 —CKD（AKIも含む）の専門医への紹介基準を再考する— [日本医師会生涯教育講座 2.5 単位認定] 座長 沢田内科医院 院長 澤田知宏 1. 高齢者やANCA関連血管炎を想定した場合の紹介とその加療 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎 2. 非高齢者やDM患者を想定した場合の紹介とその加療 熊本市立熊本市市民病院腎臓内科部長 宮中 敬 3. IgG4 関連腎臓病を想定した場合の紹介とその加療 熊本大学医学部附属病院地域専門医療推進学術附講座特任准教授 井上秀樹	
21日(日)		
22日(月)		
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会（研1）
24日(水)	18:30~20:00 第140回 救急症例検討会 「精神科救急（兼DSHカンファレンス）」	
25日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「輸液の実際」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田正郎 18:30~20:00 熊本県臨床細胞学会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会（研2）
26日(金)	20:00~21:30 第69回 医歯連携セミナー 「在宅診療の実際」 在宅療養支援診療所 田島医院 院長 田島和周	
27日(土)	14:00~16:00 第261回 熊本県滅菌消毒法講座 「洗浄と滅菌の基礎」	
28日(日)	13:00~17:00 第29回 臨床薬理セミナー 「救急医療と薬剤師」	[日本医師会生涯教育講座 3.0 単位認定] [日本薬剤師研修センター認定研修 2.0 単位認定] 熊本大学医学部附属病院救急・総合診療部教授 笠岡俊志 国立病院機構九州医療センター救急部長 小林良三 小倉記念病院薬剤部長 入江利行
29日(月)		
30日(火)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ（<http://www.nho-kumamoto.jp/>）をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501（代）内線2630 096-353-3515（直通）